

育

成

会

報

発行日 ● 2021年9月16日 **第63号**
 発行責任者 ● 境地区手をつなぐ育成会
 会長 戸塚 和市
 事務局 ● 社会福祉法人 桑の実福祉会
 Tel. 0270-74-0811

ごあいさつ



境地区手をつなぐ育成会 会長
戸塚和市

令和3年度境地区育成会会報発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

境地区の皆様には、本年度も境地区手をつなぐ育成会の活動に深いご理解のもと、「ふれあい募金」にご協力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。この貴重な募金を活動源として障害福祉の増進と発展に努力してまいります。

私たちは、目に見えない不安や緊張の中、「新型コロナウイルス」という「災害」を経験し一年半が過ぎようとしています。今までとは違う生活環境(様式)になったのは間違いありません。今は、一人ひとりが予防を心がけ、節度ある行動をし、日々のちょっとした事を大切に、いつもの生活(日常)に戻るよう願うばかりです。

昨年に引き続き今年度も、育成会の役員会は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止する観点から、書面により同意の意思表示を得る事にし、令和2年度事業報告・決算報告・会計監査、ならびに令和3年度事業計画案・予算案・役員改選案について全員の同意がありました。これをもって役員会の決議があったものとし、会報にて報告いたします。

昨年度は多くの会議や事業が中止になりました。今年度も事業計画については実施が困難な場合は状況を踏まえながら見直しを行い、コロナ禍での育成会のあり方など考えながら事業を進めていきたいと考えています。

これからも各関係機関・団体と親密な関係を保ち、知的障害児者の教育と福祉の振興につとめ、住み慣れた地域の中で支え合い、誰もが安心して暮らせる社会を目指していきます。引き続き、境地区手をつなぐ育成会事業に温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

終わりに、区長会、民生児童委員協議会、地域ボランティアの皆様、事務局「くわのみ」の皆様、大勢のご協力者の皆様の健康と安全をご祈念してご挨拶と致します。



令和3年度 ふれあい募金のお礼

今年度もご協力ありがとうございました。

頂いた募金額 1,620,800円

このうち半分は、境地区手をつなぐ育成会の活動資金とさせていただきます。

私たちの声を届けたい



今年はおおたひです

夏なのでは木てほし
いです 

くわのみ 下山孝徳

僕は、くわのみに通っています。送迎車に乗る朝は8時20分に待っています。毎日通って行き楽しいです。とてもうれしいです。くわのみが楽しいです。ホームでがんばりたいと思います。マックスをたくさん作っています。公園掃除にも行っています。作業が忙しいです。マスク着用をしています。くるしいです。がまんしています。これからもがんばりたいと思います。東京オリンピックが始まりました。

くわのみ 荻野雅子

医療スタッフのみなさまお疲れさまです。「コロナ」の先端でこれからも頑張ってください。

くわのみ 森田一枝

くわのみに入って4年目になりました。4年になるまで中塚さんはじめ職員のみなさんがいろいろ教えて今、楽しくしています。それから職員の人に小林ファームに連れて行ってもらいいままでやったことのない枝豆のふくろづめをしたり、草むしりをしたりとても楽しいです。コロナが増えてきています。気をつけていきたいです。はやくコロナがなくなってまたみなさんとどこか行きたいと思っています。くわのみに入れたので楽しいです。これから体に気をつけて頑張りたいです。ホームで野菜を作っています。これからも暑さに負けないで桑の実に行きたいです。



桑の実作業所 Aさん

仕事の内容は、ビニールカットの仕事をしています。ダンボールの回収などで車で職員と一緒に町内へ行く時もあります。

自分は、新型コロナの話で外に出ていく事を控えてくれと言われていました。

自分は、どのようにして気持ちのリズムを落ち着かせることが出来ればいいかと思う。テレビでコロナの事を聞いたりすると自分の考えている事が出来なくなり不安になり、体の調子が悪くなったりすると作業所に行けなくなるのでどのようにしたら体のリズムを戻せるのかと考えるようになった。

今、夏休みなのでコロナの中で生活をするのは大変かと思うと心の中でこの気持ちをおさえる事が出来ればいいかと考えて作業所やホームなどで心配がないように4か月間生活をしていきたいです。

桑の実作業所 Bさん

去年からコロナウイルス感染症がはやりだして大変な生活を続けている中みんながんばって仕事をしています。まだまだ数は少ないけれどコロナに負けず、暑さに負けずがんばりたいと思います。

桑の実作業所 Cさん

今、最近、色々な作業でがんばっています。今、コロナの関係でどこへも行けなくてなかなか無理です。今、もっとやりたい事は、いっぱいあるけど後は、若者にまかせて早くコロナが終わればって感じかな？今後も色々な作業をゆっくりと覚えていきたいなあ。たまには、休みたいなあ時々は思っています。僕は、パチンコかな？休みも必要かな。これからもがんばりたいなあと思っています。

桑の実作業所 Dさん

新型コロナが流行だして2年くらいたとうとしていきます。今年は、コロナワクチンが打てるようになりました。私は1回目のコロナワクチン接種をしました。2回目の接種は3週間後に打ちます。まだまだ新型コロナウイルスが流行していますが、早く新型コロナが収束したらみんなとどこかに出かけたり旅行に行きたいです。

桑の実作業所 Eさん

自分は、仕事も頑張りたいし、今、コロナで日本が大変な事はいつもテレビで見えています。いつもコロナばかりで感染が多くなっています。でも日本も負けずにがんばっています。

自分はあまり出かける事はしませんがアニメや野球とかサッカーを見る事が好きです。一番好きなのはプロレスが好きで今、自分は悪のヒーローレスラー系が好きです。ちなみに、プロレス女子も人気で男女に人気です。アニメは、「呪術廻戦」とか「週刊少年ジャンプ」が好きです。今年もコロナで大変ですが自分もコロナに負けず仕事も頑張りたいです。

桑の実作業所 Fさん

私は、作業所に入って15年経ちました。仕事は、スバル、ジューキなどをしています。すごく忙しいけど、みんなで作業をしています。2020年から新型コロナウイルスが大流行しています。現在は、別のウイルスも大流行しています。今、ワクチン接種も始まっています。新型コロナや別のウイルスが収まってくれる事を願っています。東京オリンピックでは、ソフトボール日本代表が金メダルを獲得しました。他の競技もメダルを獲得しました。コロナがおさまる事を願っています。

桑の実作業所 Gさん

コロナがおさまる心配が無い中、自分はあまり外で遊ぶ事や買い物に行くとストレス解消をしたりするタイプではないのであまり影響を受けないと思っていましたが、最近になって外でやりたい事が増えてもやりたい事が出来ず、コロナの影響でストレスがたまるという事に気が付きました。オリンピックで更にコロナの人数が増えて中々したい事が出来なくなり、早くコロナがおさまってほしいと願っています。



桑の実作業所 Kさん

作業所で仕事をしています。作業所では中の仕事も外の仕事もあります。仕事が入ってくる量はその日によってちがいがり量が多い日もみんな頑張っています。

個人的にはよくテレビを見えています。特に音楽番組とクイズ番組をたくさん見えています。特に、J-POPとK-POPが好きです。また、クイズ番組は好きな芸能人が出ていると嬉しくなります。スポーツは出来ないけどオリンピックの期間は中は放送局を変えながら色々見えています。

桑の実作業所 Mさん

好きなスポーツカーは、「HONDA-NSX」と「NISSAN-GTR」です。好きなアイドルは、AKB48のメンバー 柏木由紀と前田敦子、橋本環奈です。好きな車はSUZUKIのトラックギガとバスガーラを乗りたい。今年、東京オリンピックをやっています。井上くん早く治ってほしい。ホームに戻って下さい。好きなマイカーは、「HONDAのアコード」、「NISSANのスカイライン」です。好きなテレビ番組は、アイカツ。仕事は、PILOTのをやっています。大型免許を取りたい。野球は阪神タイガースのファンです。



お井戸

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ

あまのこ



ドラえもん



ドラえもん





コロナ禍での育成会活動について

誰もが経験したことのない「災害」のような感染症と向き合い1年半が過ぎました。

「新しい生活様式」にも慣れ、マスクは肌の一部となり、毎日の検温や手指消毒、最初は戸惑いながらのリモート会議や研修などは普通になってきました。そして、世間では「緊急事態宣言」や「まん延防止措置」という言葉に慣れてきてしまったという報道もあります。全国的にワクチン接種が進んでいるとはいえ未だに収束の気配が見えません。感染者が増加する事により保健所・医療現場はひっ迫し、救える命も救えない状況になっていると報道されています。現場で対応している医師や看護師の中には日々、使命感を持ち、命と向き合い心身共に疲れ、休む事もできず、感染防止の為に家族と離れ生活している人もいと聞きます。報道されている事はごく一部にすぎません。私たちは、目に見えないウイルスに対して不安や緊張感を持ち予防を心がけ、節度ある行動をし、少しでも感染者数を減らすことが現場で働く方々への感謝につながると考えます。SNSなどから情報を得られる世の中だからこそデマに惑わされず、イメージや感情に左右されず一人ひとりが“正しく理解する事”を心がける事が大切だと思っています。

育成会の事業について、昨年度は、ほぼすべての事業ができませんでした。今年度も会報を作成する事になり内容をどうするのか・・・悩ましいところでした。福祉バレード・福祉集会も中止になってしまったので、みんなにメッセージや絵などをお願いしてみると、素晴らしい作品が並びました。

今年度も3密を防ぐ事、感染対策をする事、参加者への安心安全の事などを考えると行事や事業の実施は難しいのではないかと考えています。コロナ禍における育成会のあり方は？ どのような活動(社会的貢献)、地域への支援が出来るのか？ 例えば、知的障害者を取り巻く状況には、福祉医療制度に含まれない人たちの医療費負担、本人の経済的困難、家族の経済的負担、親亡き後の不安など様々な課題があります。現場(地域)ではこういう事で困っているという小さな“声”を各行政機関に持続的に発信していき小さな“声”が大きくなるように、その“声”に耳を傾けてもらえるように、役員を含めた関係者で可能な限り努力していきたいと思います。

この状況が改善した日には、これまで以上に育成会として地域の皆様と協力しながら楽しい事業を実施していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

事務局 石田 晴洋



おしゃべりしませんか

お茶会のごあんない

今年度も新型コロナウイルスでスタート。9月には、開催できることを願いつつ会場の予約も済ませたものの再び警戒度4になってしまいました。形を変えたり場所を変更したり工夫しながら乗り切りたいですね。まだまだ、予定つかずですが、みなでおしゃべりする日を作りましょう。

お茶会の予定

奇数月の第1火曜日です(祝日の時は、日時は変更しています)

- 場所: 境地域福祉センター 伊勢崎市境上武士972-1
- お問合せ: Tel.0270-74-3052(古田眞樹子)

令和3年度 境地区手をつなぐ育成会役員

- 会長 戸塚 和市
- 副会長 柳 伸二(境地区区長会)
- // 池田 利夫(剛志地区区長会)
- // 細谷 健一(采女地区区長会)
- // 清水 俊正(島村地区区長会)
- // 竹田 茂(東地区区長会)
- // 古田眞樹子(桑の実会会長)
- 会計 松島 徳一(地域ボランティア)
- // 石井 芳江(地域ボランティア)
- 書記 富田三輝夫(桑の実会)
- // 中村 敬一(民生児童委員)
- 監事 萩原 卓郎(元会長)
- // 長沼 重男(桑の実会)
- 理事 岩井 丘江(民生児童委員)
- // 稲川 文夫(民生児童委員)
- // 天田眞里子(民生児童委員)
- // 船戸 寛(民生児童委員)
- // 小島 辰雄(民生児童委員)
- // 山本新四郎(地域ボランティア)
- 顧問 石井 昭安(前会長)
- // 小保方 祥浩(境東小学校長)
- // 吉岡 昭一(桑の実福社会理事長)
- // 安藤 恭二(民協会長)
- // 杉原 啓介(境支所住民福祉課長)
- 事務局長 中塚 美子(くわのみ)
- 事務局員 石田 晴洋(くわのみ)
- // 新井久美子(くわのみ)
- // 葛西 大貴(くわのみ)
- // 小山ひろみ(くわのみ)



令和3年度 事業計画

障害を持つ人も、持たない人も同等に生活し、活動する社会を目指すノーマライゼーションの理念は社会に浸透したかのように見えますが、知的障害を持つ人が日常的に活動できる場所や機会は、依然として限られているのが現状です。

障害者に対する政策を後退させた障害者自立支援法から「障害者総合支援法」に変わっても法律の骨組みは変わらず、障害を持つ人たちをとりまく環境の厳しさは続いています。知的障害(児)者が、「地域で育ち」、「地域で適切な教育を受け」、「地域で暮らし」、「地域で活動し」、「地域で働く」というあたりまえの権利さえ、手に入れることが難しくなりつつあります。

このような厳しい時代に、境地区で生活する知的障害(児)者を、同じ時代を生きる隣人として支え合い、助け合うために次の事業を推進します。

現在、全国的にコロナウイルス感染症が猛威を振るっているため、事業計画のなかで実施が困難な場合は、見直しを行いながら、事業を進めていきます。

- 令和3年度役員会 * 書面決議
- 役員視察研修会
期 日: 下半期に開催できなければ中止
視察場所: 未定
対象者: 育成会役員、保護者等
- 日帰りわくわく体験事業の開催[40名程度予定] * 内容未定
対象者: 特別支援学級児童生徒、就労者、くわのみ・桑の実福祉作業所、まゆ通所者等
期 日: 下半期に開催できなければ中止
- 啓発宣伝活動(会報の発行)
年2回発行・活動内容の報告等
- 産業祭で「みんなにんげん!つながりフェスティバル」の開催(境地区手をつなぐ育成会・桑の実会・やよい福祉会3団体の共催)
* 産業祭が中止であれば中止
- クリスマスパーティ
12月 * 開催可能な状況でなければ中止
- もちつき大会 * 開催可能な状況でなければ中止
期 日: 例年は1月の第三土曜
会 場: 境地域福祉センター
- 卒業生を励ます会
期 日: 2月中旬
境地区の小中特別支援学級・伊勢崎特別支援学校の卒業生対象
* 実施の可否は学校の判断に委ねる
- 福祉作業所、デイサービスセンター、障害福祉サービス事業所「くわのみ」への協力
- 境地区手をつなぐ育成会主催の本人活動支援事業の開催
余暇活動・社会参加活動等 * 開催可能な状況でなければ中止
- 境地区手をつなぐ育成会への理解を深めることを目的とする事業の開催 * 開催可能な状況でなければ中止
学齢期の子をもつ親を対象とした、おしゃべり会 ほか
- 群馬県手をつなぐ育成会などの団体が行う事業への積極的参加
県育成会大会・全国大会・福祉パレード・スポーツ大会等への参加
* 開催可能な状況でなければ主催者が中止の判断をする場合あり
* 手をつなぐ育成会 群馬県大会
今年度は関東ブロック大会の当番県のため実施せず
* 全国大会 オンラインで開催予定
* 関東甲信越ブロック大会 7月11日 オンライン開催
* 福祉パレード・福祉集会 中止
* 障害者スポーツ大会 未定
* 保護者研修会 未定
- 知的障害(児)者が、「地域で育ち」、「地域で適切な教育を受け」、「地域で暮らし」、「地域で活動し」、「地域で働く」という当然の権利を守るために必要な事業及び支援活動



令和2年度 事業報告

5月		令和2年度役員会〔書面決議〕
7月	中止	役員会視察研修会
	中止	手をつなぐ育成会 群馬県大会
8月	中止	運営委員会
9月	中止	福祉パレード
	中止	障害者スポーツ大会
10月		育成会報発行
	中止	境福祉バザー協力
	中止	運営委員会
11月	中止	みんなにんげん! つながりフェスティバル
12月	中止	運営委員会
	中止	クリスマス会
1月	中止	もちつき大会
2月	中止	群馬県手をつなぐ育成会社会活動推進事業
	中止	後期役員会・情報交換会
2月下旬		卒業生を励ます会〔各学校で実施〕

令和2年度 収支決算

[収入]		[支出]	
ふれあい募金	823,250円	会議費	0円
補助金等	0円	旅費	10,000円
負担金等	0円	需用費	9,693円
雑入	36,329円	印刷費	290,000円
繰越金	375,009円	行事費・研修費	39,830円
合計	1,234,588円	大会参加費	0円
		慶弔費	5,000円
		負担金等	9,000円
		予備費	0円
		合計	363,523円



『いかなる差別も禁じる』という 理念の大会で起こった数々のできごとについて

東京2020オリンピックが終了した。開幕前には開催について賛否両論あったものの、いざ、日本人選手がメダルを取り始めると、マスコミが煽ったこともあり国中が応援団化していた。

オリンピックが1年延期されたことや、コロナ禍のなかで開催されたことについての評価は、今後様々な見地から検証されることであるし、国際的なテロ組織の標的にもされず、無事に終わったのは慶賀すべきことと思う。

で、大会前に突如、開会式関係者の過去の看過できない行動が騒動となった。東京2020オリンピック・パラリンピック大会における楽曲製作に参加していたミュージシャンのOK氏が過去に障害のあるクラスメイトに対し、苛烈な暴力行為・虐待行為(いじめという言葉は事実を正確に表していない)を行っていたことが報道され、開会式の担当を辞任した。

問題発覚直後は、大会組織委員会としては、OK氏を留任させる意向であったらしいが、直後に知的障害者の権利擁護団体である「全国手をつなぐ育成会連合会」はホームページで声明を発表している。

声明では、「OK氏のインタビュー記事は採録がためられるほどの凄惨な内容であり、虐待あるいは暴行と呼ぶべき所業」であり、「OK氏の行為には強く抗議する」としている。

さすが全国手をつなぐ育成会連合会。自分たちが抗議しなければ、障害があるという理由で暴力を受けることが黙認されてしまうという危機感が伝わってくる。さらには過去にはマスコミがその行為を「武勇伝」のように扱って雑誌に掲載したことへの毅然とした怒りも。

手をつなぐ育成会は、知的障害者の家族が血の滲むような思いで社会の偏見や差別と戦ってきた団体なので(自分の子やきょうだいが同じような暴行を受けたら絶対に許さない)と思うのは当然のことである。たとえどんなに才能があったとしても、障害者の人権を踏みこむような行為をして、それを平然と語るような人間を、当事者団体だけでなく大多数の人は認めない。

「専門知識も大事、技能も大事、それ以上に大事なものは倫理観である」と、福祉の仕事を目指す人間は教わる。『自分がされて嫌なことは人にしてはいけない』と子どもたちも教わる。でも、障害者差別や虐待はなくなる。では、障害者支援に携わる私には何ができるだろう。せめて、『それは駄目だと思う。』と声をあげていくことが福祉の専門職としての矜持かもしれない。

(事務局 N)

*すべての写真の掲載についてはご本人の同意を得ています。